



学校評価だより

令和8年度 前期号

令和8年 9月 17日

京都市立正親小学校

校長 長谷川 英司

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました

7月に行った前期のアンケートには、多数ご協力いただきありがとうございました。

今年度も、それぞれの質問項目に対して「そう思う」「だいたいそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4段階で評価していただきました。数値は割合(%)を示しています。また、これまでの「知」「徳」「体」で分けていた項目を「よりよい」「確かな学力」「いのち」「ひろがり・つながり」に整理しました。

この結果を保護者・地域・教職員で共有し、これらのデータを本校の「めざす子ども像」の実現に向けて考察しました。また、児童・保護者・教職員(以下、三者)の数値を比較することで、より有効な手立てを追求していきます。

令和8年度 学校評価アンケート(前期)結果

よりよい

	評価項目		そう 思う	だいた いそう 思う	あまり そう思 わない	そう 思わ ない
よりよい	① 学校が楽しい	児	60	35	4	1
	子どもは、毎日楽しく学校へ通っている。	保	56	36	7	1
		教	31	69	0	0
	② 自分からあいさつをしている	児	56	37	5	2
	子どもは、自分からあいさつをしている。	保	29	55	15	1
		教	19	56	25	0
	③ 友だちにやさしくしている。	児	58	38	3	1
	子どもは、友達に優しくしている。	保	46	52	2	0
		教	31	63	6	0
	④ 学校で自分の気持ちや考えを安心して話せる。	児	38	44	16	2
	学校は子どもが安心して過ごせる場所である。	保	54	42	4	0
		教	50	44	6	0
確かな学力	⑤ 「学校の決まり」を守っている。	児	57	40	2	1
	子どもは、「学校のきまり」を守っている。	保	51	46	3	0
		教	31	63	6	0
	⑥ 使ったものは、元の場所に片づけている。	児	69	26	4	1
	子どもは、後始末の習慣が身についている。	保	16	45	37	2
		教	13	68	19	0
	① すすんで学校での学習をしている。	児	60	35	4	1
	子どもは、進んで学校での学習をしている。	保	33	45	18	4
		教	25	75	0	0
	② 授業中自分で考え伝える学習をしている。	児	42	45	8	5
	子どもは、自分で考え伝える学習をしている。	保	18	55	26	1
		教	25	69	6	0
確かな学力	③ 先生や友達の話をしっかり聞いている。	児	60	36	3	1
	子どもは、人の話を聞いている。	保	25	56	17	2
		教	31	50	19	0
	④ 学校や家ですすんで読書をしている。	児	51	26	18	5
	子どもは、学校や家で進んで読書をしている。	保	23	32	35	10
		教	13	74	13	0
	⑤ 家での学習をきちんとしている。	児	50	42	5	3
	子どもは、家庭での学習をしている。	保	36	28	29	7
		教	31	63	6	0

「②自分からあいさつをしている」では、児童は比較できていると感じていますが、大人から見るとまだ十分とは言えない面があります。あいさつを単なる習慣としてだけでなく、人とつながる力として大切にしていけることが必要です。また、大人が見本になることも意識したいと思います。

「⑥使ったものは、元の場所に片づけている」について、特に保護者の評価が低く、家庭において後始末について課題意識があることが分かります。学校での指導と家庭での生活習慣をつなげて考えていく必要があります。子どもは学校で出来れば良いと考えているかもしれません。周りの人のことを考えて片付けができるお互いに気持ちいいねと伝え、できている時は褒めて価値づけることも大切です。

「④学校で自分の気持ちや考えを安心して話せる」では、児童の中に十分ではないと感じている児童がいるよう

です。学校としては安心できる環境づくりに取り組んでいるものの、児童自身が「自分の思いや考えを出してよい」と実感できる場をさらに増やしていく必要があります。大人が思う以上に、子どもは伝えられていないのだと捉え、時間や心に余裕を持って子どもと向き合いたいと考えます。

この3項目については、いずれも、低学年のうちから身に付けていけるよう教職員一同改善を図っていきます。

いのち	①	きそく正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)をしている。	児	48	40	9	3
		子どもは、規則正しい生活を送っている。	保	42	48	8	2
			教	13	74	13	0
	②	すすんで体を動かしたり、運動をしたりしている。	児	66	22	8	4
		子どもは、進んで体を動かしたり、運動をしたりしている。	保	48	32	20	0
			教	39	5	6	0
	③	安全に気を付けて生活をしている。	児	80	18	1	1
		子どもは安全に気を付けて生活している。	保	49	49	2	0
			教	38	56	6	0
ひろがり・つながり	①	たてわり活動が楽しい。	児	63	26	9	2
		子どもは、たてわり活動を楽しんでいる。	保	50	41	9	0
			教	44	50	6	0
	②	学校のできごとなどを家の人に話している。	児	61	29	5	5
		学校の出来事などについて親子で対話している。	保	24	43	25	8
		一人一人の児童と対話している。	教	31	50	19	0
二条中ブロック重点項目	③	地域の行事に参加している。	児	39	35	15	11
		保護者はPTAや地域の行事に参加している。	保	25	50	22	3
		学校は、PTAや地域の行事への参加を呼びかけている。	教	62	38	0	0
	①	自分にはよいところがあると思う。	児	56	34	8	2
		子どもは自分にはよいところがあると思うことができてい	保	36	56	8	0
			教	25	56	19	0
	②	難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している。	児	48	44	6	2
		子どもは難しいことでも失敗をおそれないで挑戦することができてい	保	17	50	32	1
			教	25	56	19	0
	③	自分の夢や目標を持って過ごしている。	児	70	18	6	6
		子どもは自分の夢や目標を持って過ごすことができてい	保	26	56	18	0
			教	19	75	6	0

確かな学力

「⑤家庭での学習」についても、保護者の評価が低めです。児童はできていると感じている一方で、児童が自分を客観視できていないことも原因と考えられます。自覚するためには、周りが評価して認知できるようにしなければなりません。

また、児童が目標に向けて、こつこつ取り組むことや、量やペースを調整する力をよりつけることも必要です。

学校では一度取り組んだ課題と同じ課題に取り組み、達成感を与えることを大切にしています。出来ていないことよりも出来たことに目を向け、児童に達成感や自信を与えるのが、周りの大人の役目ではないでしょうか。今後もホームページ等で子どもたちが頑張っている姿を配信していきます。

二条中ブロック重点項目

「②難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」では、学校では挑戦する姿を見取っていても、家庭ではその姿が十分に伝わっていない、または家庭での姿とは違って見えている可能性があります。つまり、「よりそい」や「確かな学力」と同様の傾向があることがわかります。

児童にとって学校は小さな社会であり、多くの人との関わりの中で良い姿を見せようとしします。その反対に、家庭は保護者によって守られた安らげる場所です。したがって、児童が挑戦する姿は学校で見られることが多くなるはずですが。

今回の結果から見てきたことは、学校での児童の頑張りや成長を保護者の皆様に認めてもらったと思えることが児童の成長に欠かせないということでした。日頃から保護者、地域の皆様には本校学校教育に対して多大なるご協力をいただいております。今以上に学校での児童の姿に関心をもっていただけるよう、努力をしてまいります。取組の一つとして、すぐーる配信の際に、学校ホームページのURLを貼り、見ていただきやすくしていきます。ぜひご活用ください。

今回のアンケートを通して、皆様の声から多くの気づきを得ることができました。7月の学校運営協議会理事会でも、この結果をもとに理事の皆様よりご意見をいただきました。引き続き、学校と家庭、そして地域が協力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。